

## 「上野・谷中の建築ウォーク」

2016年12月10日（土）第一支部研修報告レポート

JGA第一支部運営委員会

12/10（土） 午前10時～16時上野・谷中の建築ウォーク研修は参加者35名、イヤーエンドパーティーの翌日でもあって関東圏はもとより高知、広島、神戸、大阪からも参加頂き盛況に終了致しました。講師は一級建築士でもある溝口義博正会員です。

午前の部は今年世界遺産に登録されたスイス人建築家で近代建築の巨匠、ル・コルビュジエ設計の国立西洋美術館の設立由来、建築特徴、設計秘話等の話しから始まりました。国立西洋美術館正面前の東京文化会館はル・コルビュジエの弟子である前川國男の設計で、前川は同会館を設計するにあたって師匠であるル・コルビュジエの国立西洋美術館の高さを決して超えないように設計したそうです。その後は東京国立博物館へと向かい、外から建築群の説明に入り、午前の部は終了各自昼食に入りました。

午後からは大名江戸屋敷の力強さを表す木造建築の旧因州池田屋敷表門、安藤忠雄がリニューアル設計をした国際子ども図書館、岡田新一郎設計の黒田記念館、そして上野桜木会館へと向かいました。この上野桜木会館は約90年前の昭和初期に建てられた典型的な中流家庭の住宅で、外国人のお客様をご案内の際には部屋が空いておれば畳部屋を体験することが出来るのでとても喜ばれるのではないのでしょうか。その後旧吉田屋酒店へ向かい実際の揚げ戸の可動を見学。その後は根津神社と横山大観記念館へと向かいました。道中では今回配布資料の江戸の古地図（1800年頃のもの）を見ながら、昔の位置に残っている忠綱寺や体昌院の前を通り、まるでタイムトリップし江戸時代の侍になった気分も味わいました。最後は純和風の数寄屋作りの横山大観記念館に入り、館内ツアーに参加、横山大観が使っていた部屋を見学し、大観が自らデザインをした庭や大観が画家になるまでの経歴や大観の作品についても触れて頂きました。建築も庭も素晴らしいものでした。



東京芸大から谷中に向かう

国際子ども図書館前で